



2026年 団結旗びらき



第 245号 発行 羽生 隆盛 編集 木下 賢一 大阪市北区錦町2-2 TEL06-6354-0700 FAX06-6358-1465

賃上げ、雇用と労働条件の改善を

2026国民春闘の前進へ

1月10日、近畿地本は「2026年国労近畿・団結旗びらき」を国労大阪会館にて開催し、組合員35名の仲間が参加しました。

第一部は、「北陸新幹線 京都延伸計画を考える」と題して京都総評 梶川 憲 議長より講演が行われました。

第二部、旗びらきでは、主催者を代表して羽生委員長があいさつ。来賓では、社会民主党・長崎代表、新社会党 山下 茨木市会議員、こくみん共済コープ大阪推進本部 大阪市東推進課・田口 課長、国鉄退職者組合大阪地方連合会・田中 副議長、国労西日本本部・大和 副委員長より激励と連帯の挨拶を受けました。その後、宮野書記長から当面する闘いの提起されました。旗びらきは和やかに交流・懇談を行い、国鉄大阪合唱団「号笛」のうたごえが披露されました。最後に、兵庫地域分会・大阪地区本部・京滋地域分会より決意表明が行われ、「組合

北陸新幹線 京都延伸計画を考える (要旨) 京都総評 梶川 憲 議長



与党プロジェクトとして自民党・西田参議院議員が責任者、維新の前原氏が共同代表を務めるが、維新は大阪万博・カジノ優先から京都選挙対策へと立場を変え、京都ルートへの懸念を表明するなど混迷しています。 京都総評は、在来線や地域公共交通を切り捨て、大都市間高速鉄道を優先する大規模開発そのものに反対の立場を取っています。 京都府資料では「府民の理解と納得」が条件とされ、国定公園・地下水・残土処理・文化財・交通渋滞・治水など多くの施工上の課題が挙げられています。「納得」という文言は、どうしてもダメと言われたら動けないという行政の苦しさを示しています。 計画の80%が大深度地下トンネルで、地震時の横ずれや事故時の避難困難性など安全面の危険性が指摘されています。 「全国新幹線鉄道整備法」「大深度法」により、住民説明を十分行わず工事を進められる仕組みが問題視され、環境アセス調査段階から住民の反発が起きています。 建設費は当初約2兆円から、資材高騰で5兆円超に膨張し、採算性への疑問が一気に広がりました。費用負担は最終的に国や自治体に重くのしかかり、借金財政を招く懸念が示されています。 反対運動の高まりを受け、自治体や議会が相次いで懸念・反対を表明。京都市議会・府議会は大深度トンネル反対や在来線特急拡充を求める決議を採択し、南丹市や石川県も反対を表明しました。JR西日本も「赤字でも運営することはできない」とし、在来線特急復活には否定的姿勢を示しています。 今後は、①耐震性の問題、②地下水への影響、③有害残土、④巨額な建設費、⑤採算性の欠如と長期工期、⑥公共交通切り捨て、という重大な問題が解決されない限り計画は認められず、少数与党となった与党プロジェクトに対し断念を迫る運動を拡大していきます。

「メッセージ」 日本共産党大阪府委員会 近畿労働金庫梅田支店

昨年臨時国会では、自民維新連立の高市政権が、衆議院議員定数削減を強行しようとしていましたが、継続審議となりました。年明けの通常国会

では、大軍拡、医療費4兆円削減の予算案を始め、副首都構造、国家情報局創設、スパイ防止法などの法案を提出すると思われまます。軍事大国化を止める世論の輪を広げるため取組みを強化しなければなりません。 1947年に決定された国

労働法の九項には「我々は戦争には反対しアジアと世界の完全な平和を目指して戦う」とうたわれています。職場闘争と組織強化拡大行動を強め軍事大国化を押し進める高市政権の暴走を許さずすべての組合員と働く仲間が団結して平和と民主主義を守り、職場での権利を守り職場の労働環境を改善するために奮闘することが求められています。

二六春闘では国労本部の統一要求額2万一千円を基本とあります。私たちは組合員の生計費に基づく要求、物価高対策を盛り込んだ要求を掲げ、春闘の山場ではストライキを構えて闘う決意で意思統一し団結することが重要だと考えます。 あらゆる問題を組織拡大運動に結び付け、要求の多数派から、組織の多数派に向け、運動を広げて行くことも必要です。 今年は午年であり、新しい年が「帰馬放牛(きばほうぎゅう)の世へ前進することを願います。 近畿地方本部は、運動の先頭にたつて闘う決意を申し上げます。 年頭の挨拶とします。

- ◆第195回拡大中央委員会で決定される統一要求重要要求の実現、ベア・期末手当の満額回答を求めて奮闘する。
- ◆会社間格差の是正、労働条件改善、契約社員の本社員化、同一労働同一賃金を求めるとともにJRの安全輸送の確立をめざして闘う。
- ◆「一職場一要求」を基本とした現場長申し入れを行ない、「現場協議制度」の確立に向けて全機関が積極的に運動を取り込む。
- ◆春闘の取り組みと合わせて、職場要求獲得を目指し組織拡大に全力をあげる。
- ◆会社の思想攻撃と「賃金抑制」の欺瞞性を明確にし、職場集会や教宣活動を強化し、誰もが安心して働ける職場と大幅賃上げ獲得をめざして全力で闘う。
- ◆各級機関は職場討議を行ない、ストライキ体制の確立をはじめ、2026年春闘に向けた意思統一を図り、国労の闘いをアピールしながら運動を展開する。
- ◆改憲策動阻止、辺野古新基地建設反対、原発再稼働反対、格差と貧困の是正、年金・医療・介護・教育問題など国民的課題と結合させて春闘勝利をめざす。
- ◆地域春闘との連帯を軸にした諸行動に積極的に参加する。

青年女性中央総行動カンパ集約 31,000円

具体的な要求と 行動展開につ

# 日越友好

## ベトナム訪問記

近畿地本執行委員

西澤 宗司郎

10月28日から31日まで4日間、私は日越友好協会鉄道（西日本）支部の代表団の一員として、ベトナム鉄道労働組合の招きを受けてベトナムを訪れました。

### 10月28日

#### ハノイ到着と 鉄道労組との会談

ハノイのノイバイ国際空港に到着すると、鉄道



労働組合のミンさん、ドライバーのロンさん、通訳のチンさんが温かく迎えてくれました。挨拶もそこそこに市内へ向かい、急ぎよ組合事務所で会談が行われることになりました。

会談では、ベトナム鉄道の歴史や高速鉄道計画、組合活動について説明を受けました。

日本の新幹線の安全性が高く評価されていることを知り、国境を越えて技術が信頼されていることを実感しました。

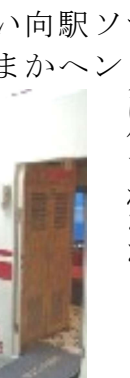
夕食はベトナム料理の交流会。パクチーがいろいろの料理を想像していましたが意外にも少なく、調味料を自分好みに調整できる食べ方がとても新鮮でした。特にインディカ米の香りと味わいは忘れられません。「ST25」という品種がおいしいと教わり、購入しました。

### 10月29日

#### 観光列車と ハノイの文化

翌朝、ハノイ駅に着くと徴兵制度による若い兵士たちの姿があり、独特の緊張感が漂っていました。私たちは観光列車「HANOI TRAIN」に乗り、歌や踊りのパフォーマンス

マンスに包まれながらトゥーソン



寺を参拝し、後、再び列車でハノイへ戻り、昼食後はハノイ・メトロ2A号線に乗車。きつぷはICカード方式でプラスチック製の座席など、日本とは異なる鉄道文化に触れました。

夜は水上人形劇を鑑賞。言葉は分からなくても、ユーモラスな動きと繊細な操りに魅了されました。夕食には名物料理チャーコーヒを味わい、ベトナムコーヒーで一日を締めくくりました。

### 10月30日

#### ナムコックの自然と ニンビンの鉄道

この日は本場のフォーで始まり、出汁の深い味わいに感動しながら、世界遺産ナムコックへ向かいました。小雨の中、手こぎボートで奇岩の間を進み、洞

窟をくぐり抜ける体験は



まるで別世界でした。ニンビン駅では、日本から寄贈されたDD11-2号機を見学。ベトナム戦争終結直後に労働組合が中心となって鷹取工場で改造・寄贈した機関車で、日越のつながりの歴史を感じました。

その後、駅長と会談し、駅構内を案内してもらいました。夕食は海鮮バイキング。ワニや蛙など日本では珍しい料理も並んでいました。

### 10月31日

#### ハロン湾と バツチャン村

ハロン湾クルーズでは鍾乳洞ティエンクン洞窟を見学し、自然が作り出した壮大な造形に圧倒されました。

バツチャン村では焼き物の制作現場を見学し、職人の技に触



れました。この日でお別れ。短い間ながら温かく迎えてくれたことに感謝し、今後も友好を深めることを約束しました。

### 11月1日

#### ホーチミンと ドクさんとの交流

翌日、私は日本から持参した車いすをドクさんに手渡しました。ドクさんは枯れ葉剤の影響で結合双生児として生まれ、日本でも「ベトちゃんドクちゃん」として知られていますが、短い時間でしたが、直接お会



いして交流できたことは忘れられない経験となりました。その後はホーチミン市内を観光。中央郵便局やノートルダム大聖堂を巡り、ベトナム市場では濃厚なマンガオを味わいました。昼食のカニスープは特に絶品でした。

戦争証跡博物館では、ベトナム戦争の生々しい展示に胸が締めつけられました。悲慘さを改めて感じ、平和への願いを強くしました。最後は高級ベトナムコーヒを楽しみ、中華料理の夕食を終えて深夜便で帰国しました。



訪問を終えて初めてのベトナムは驚きと学びの連続でした。英語が通じない場面も多く、次に訪れるときはもっとベトナムについて学びたいと思えました。食事はどれもおいしく、特に米・肉・野菜のバランスが良かったことが印象に残っています。鉄道の発展がまだ途上であること、都市部の渋滞や大気汚染の深刻さなど、現地で見た課題も多かったですが、それ以上に人々の温かさや文化の豊かさという思いが強く残りました。今回の訪越を支えてくれたすべての方々に心から感謝します。